

花巻の仕事

Made in HANAMAKI



早池峰醍醐チーズ

大迫産の牛乳を使い、余計なものは一切入れない体に優しい手作りチーズです。ホルスタインとフラウンスイスの牛乳をフレンドして使用。塩分が少なく、優しい味わいです。

組合名 大迫チーズ加工生産組合

所在地 大迫町内川目18-111-1

(☎0198-48-5078)

組合概要 平成2年に設立。「地産地消」と「作り手の顔が見える生産物」がモットー。恵まれた自然環境の中で、地元産ワインとの相性の良さを追求しつつ、精一杯チーズ作りに取り組んでいる

代金を全額支払ったのに途中で工事を投げ出された！

○ **どんなトラブルがあるの？**

○ 突然訪ねて来た業者に「家の屋根が傷んでいる」と言われ、古い家で不安があったため改修工事を契約し、代金を全額支払った。完成予定日が近くなっても工事が進んでいないようだったので催促したところ「資材の代金が必要」と言われ、追加料金を支払った。その後も「やりませう」と言うだけで、ついに完成しなかった

○ **注意することは？**

○ 古い家屋に目を付け、「屋根が傷んでいる」と不安にさせ契約させる手口です。業者の話をうのみにしないようにしましょう

○ 契約を急がせる業者は危険です。本当に必要な工事かよく考え、慎重に契約しましょう

○ 工事代金は請求されるままに全額支払うのではなく、完成具合に合わせて支払うようにしましょう

○ **困ったときは？**

○ 市民生活総合相談センター(☎24-2111 内線259)へ

市民生活コーナー

被爆の経験から 平和の尊さを世界中に訴える

岩手県原爆被害者団体協議会名誉会長で、花巻市非核平和都市推進委員会長の齋藤政一さん。昭和20年8月6日、米軍本土上陸作戦に備え上級下士官将校教育軍務中、広島市で被爆した経験を語り継いでいます。

◆ **活動内容を教えてください**

市内の小中学校で開催される「平和教室」で、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるため講演を行っています。お呼びがあれば、県内、国内だけでなく国外でも講演します。これまでヨーロッパやアメリカ合衆国の各地、ニューヨークの国際連合本部でも講演しました。

◆ **講演で伝えたいことは**

原爆は二度と使用してはならないこと、戦争はあつてはならないことを訴えていくのが生き残った者の務めだと思っています。そして、子どもたちには、人類に有害な放射能を有益なものに転換できるよう勉強してほしいと期待しています。

◆ **今後の活動は**

来々4月再び国連本部に行く予定です。生きている限り、核兵器の廃絶と平和の尊さを世界中の人たちに訴えていきます。県内に約500人いた原爆の語り部が2人だけとなった今、お呼びいただければどこへでも伺います。

イー・トゥーブ人 PERSON'S 97



まさ かず
齋藤 政一 さん
(十二丁目 90歳)

原爆が広島に投下されたのは午前8時15分。齋藤さんの自宅には、その時刻を示す時計が、たくさん掛けられている

The world and HANAMAKI 世界と花巻 vol.18



花巻市国際都市推進員
ジェシー・ガットマン

アメリカの食文化

アメリカの食文化についてどんなイメージがありますか。量が多い、味が濃い、油っこい、生の魚は食べない、そんなイメージを持っていますか。そのような食べ物や食習慣もありますが、アメリカ人全員がそうではありません。実際には、住んでいる場所や家族、出身地などで食生活が異なります。例えば、私は東海岸の出身ですが、そこでは調理した魚はもちろん、生魚も食べます。また、私が箸を使っているのを見ると日本人は驚きますが、私もそんな日本人の反応に驚きます。日本人は、アメリカ人はあまり箸を使わないと思っているようですが、出身地によって、箸を使う人もいれば使わない人もいます。私は子どものころから箸を使ってきました。特に、北東部では他の国の生活や文化に触れる機会が多く、箸を使ったり、お寿司を食べたりします。

また、よく聞かれるのが「パンは毎日食べます

か？」ということです。私はいつも、「なぜそのように思いますか？」と聞き返しますが、大抵の日本人は、毎日主食として米を食べるので、アメリカ人は何を主食にするのか、不思議に思うようですね。実はアメリカには「ごはんとおかず」といったような主食と副食の文化はなく、よく食べるものは家族や地域によって多種多様です。隣同士の家でも、パスタがメインだったり、カレーだったり、中華料理だったり、食べるものはいろいろです。つまり「どの家庭でもいつもパンを食べる」という固定した決まりはないのです。なぜ「アメリカ人は毎日パンを食べる」というイメージがあるのか、はっきりした理由は分かりません。おそらく、映画やテレビの影響を受けていると思いますが、現実の生活とは違うことも多いです。

アメリカはいろいろな文化の人が集まっている国ですので、同じ国の中にもさまざまな文化があることを伝えていきたいですね。

いきいき仲間たち



障がい児・者を支える

花巻市手をつなぐ育成会



「成人を祝う集い」の様子(本年2月)。色紙に記念の手形を押し、成人を喜び合いました

心身障がい児・者の地域生活と福祉の増進を目的に活動している「花巻市手をつなぐ育成会」。障がいのある子を持つ親の会として、平成19年6月に旧1市3町にあった親の会組織が合併し、誕生しました。現在の会員数は204人。

主な活動は、先進地視察研修や市長との懇談会、「成人を祝う集い」の開催のほか、支部単位の活動として、福祉バザーへの参加やサロンの運営など多岐にわたります。また最近では、レクリエーションや交流会など、障がい児・者本人の意見を取り入れた活動にも力を入れています。

「子どもの将来に不安を感じている親は多くいます。会の活動を通して、『自分がいなくてもこの子は大丈夫』という思いを育てたい」と話す代表の鎌田哲子さん。「同じ悩みを経験してきた親として、若い世代の親御さんとも手を取り合いたい」と、今後の活動に意欲を見せています。

【問い合わせ】 会長 鎌田 哲子さん
(事務局：ふれあいポケットわたぼうし内☎23-7402)